



ふ く い
ち お こ
L i f e



地域おこし協力隊は都市住民が地方に移住し、地域おこし活動や農林漁業の応援、住民の生活支援に従事してもらい、あわせてその地域に定住・定着を図りながら、地域活性化を目指す取り組みです。

全国では約5,000人（平成29年度）が地域おこし協力隊として活動しており、福井県でも平成21年度以降これまで約150名が活動してきました。

地域おこし協力隊といっても活動する地域や内容はさまざま。そこで、福井県の現役地域おこし協力隊と協力隊OGにゲストハウス「地域まるっと体験宿 玉村屋（南越前町）」にお集まりいただき、地域おこし協力隊についての本音トークをしていただきました。



岩本 晃弘さん

福井市地域おこし協力隊 2年目
東京都出身

梅の栽培や梅を使った商品の開発、地域を盛り上げるイベントの企画などを通して地域活性化に取り組む。大学卒業後に高齢者施設で事務員を務めた後、オーストラリアに渡り1年間農場で働いた。国内でも地方に貢献したいと思い平成29年2月協力隊に着任。



中谷 翔さん

南越前町地域おこし協力隊 3年目
京都府出身

地域の交流拠点として古民家を活用したゲストハウス「地域まるっと体験宿 玉村屋」を平成31年2月にオープン。大学在学中に自転車で日本一周。行く先々でさまざまな人と交流した経験から地域に貢献できる仕事をしたいと思い東京の旅行会社での勤務を経て、平成28年4月協力隊に着任。



相澤 弘美さん

小浜市地域おこし協力隊OG
宮城県出身

協力隊として観光振興に取組み県内外で小浜市のPRを行った。退任後にアイザワ商店を起業し、仙台弁で「お越しください」という意味の古民家カフェ「ございん」&レンタルスペース「こしえる」をオープン。地域の食材を使った東北の郷土料理を提供している。



唐川 恵美子さん

坂井市地域おこし協力隊OG
福井県坂井市出身

協力隊として移住体験施設等を拠点としたイベントの企画などを行った。大学卒業後、東京のコンサートホールなどを運営する法人に務めた後、地域と向き合ってきた人たちと働きたいと思い協力隊に着任。現在は坂井市文化振興事業団に勤務し、音楽で地域を元気にする活動を行っている。

福井の好きなのところは？

岩本 食べ物がかたくおいしい！港町に住んでいるから特に海の幸がおいしいですね。行きつけの魚屋さんもできました。

相澤 米や水もおいしいですねえ。コシヒカリは福井で誕生したお米ですし。

唐川 東京に住んでいたけど、Uターンしてきて福井の景色がすごく綺麗って実感しました。

中谷 海の景色も山の景色も少し移動すれば楽しむことができるのも魅力ですね。あとは、雪が降るところも好きかな。雪が降るから四季をはっきり感じられると思うなあ。

協力隊になって

よかった・大変だったことは？

唐川 協力隊として活動していると地域の人と関ることが多く、困った時があった時によく地域の人が助けてくれるところかな。

相澤 私も協力隊ということ、宮城県出身者が福井では珍しかったこともあって、地域





の人と仲良くなりやすかったですね。普段は外に出ることが多かったので、仲良くなると車が1日ずっと家にあるだけで、倒れているんじゃないかって心配してもらえたり（笑）

中谷 僕は地域の方が地域活動に対して主体的に動くようになったことが嬉しいな。協力隊だけで地域を変えるのは難しいけど、地域の人が変わるきっかけになることはできると思いました。

唐川 大変だったことは、福井だとやっぱり昔の考え方が少し残っていて男女の役割が決まっていたことです。女性だからという理由でやらないといけない雑用もありました。

相澤 「地域おこし協力隊」という名前から、地域のことに積極的に協力する人というイメージが強いので、活動中にギャップをよく感じました。

協力隊になった満足度は？

岩本 僕はだいたい満足しています。最初から自分のステップアップのために活動してきましたし、農業がやりたくてきたからやりたいこともできています。

相澤 元々たくさんの人と話をできる仕事をしたと思って協力隊になり、実際たくさんの人と交流ができて良かったです。でも、かなり忙しかったから及第点ってところかな。

中谷 僕はかなり満足していますね。3年間で空き家を改修して地域の交流拠点をつくることを目標に活動してきました。無事オープンにもたどり着くことができたし、これが自分のやりたいことだったので協力隊になって良かったと思います。でも、やりたいけどできていないことがまだいっぱいあるので少しマイナス。（笑）

唐川 私は満足度はあまり高くないですね。

これまでの地域おこし協力隊がやってきた業務に加えて、自分の業務もこなさなければならなかったのが、休みがあまりなく、大変でした。ただ、大変でしたが、普通では挑戦しないような仕事も経験できて良かったと思います。

今後の目標は？

唐川 文化を通して地域に関わっていきたいと思っています。教育や医療など様々な分野に音楽やアート、文化を起点にしながら地域に貢献していきたいです。

相澤 60歳までにやりたいと思っていた飲食店の経営を始めて1年経過しました。これからは営業日を増やしたり、新メニューの開発をしてもっとたくさんの人に店に来てもらい、地域の方の交流の場としてもっと盛り上げていきたいです。

岩本 福井県外のを福井県内で発信するってあまりないんじゃないかなって思う。だから、福井県外の物を福井県内に持ち込んで、福井県内で新しいモノやコトを生み出していけたらいいなって思っています。

中谷 最終的な目標は20代~40代の方たちの社会的孤独をなくしたいと思っています。協力隊の活動で宿屋をオープンしたのも、目標を達成するための過程の1つとして行ってきました。だから、2~3年宿屋を続けた後は誰かに引き継ぎ、交流拠点を開いたこの経験を他の地域でも広げていきたいと思っています。



活動紹介



File No. 01

坂井市地域おこし協力隊

久富盛和さん (38)

【出身地】神奈川県

【活動地域】坂井市竹田地区

【協力隊】平成28年4月～

【活動内容】

稲作・獣害駆除、木育インストラクター、移住体験施設で食事の提供

地域の人からの感謝が 何よりのご褒美

横浜で生まれ育ち、20代からは東京で過ごした生粋の都会育ち。しかし、地域の人に愛され、自然と共存する久富さんの姿を見ると最初から地方での生活の方が合っていたと誰もが思うだろう。

できるだけ人が少ない地方で生活したいと思い「緑のふるさと協力隊」として坂井市竹田地区で活動することとなった。緑のふるさと協力隊の任期後も、お世話になった竹田地区の方に恩返しをするため同地区で地域おこし協力隊として活動することを決意した。

稲作や獣害駆除などを行い、協力隊になってから自然のありがたさに気づいたと話す。また、ある時、約20年前まで養魚場として使われていた生簀^{いけす}を発見し、生簀の復活にも挑戦することに。周辺環境の変化もあり、再生は難しいと言われたが、試行錯誤しながら養魚に自主的に取り組んでいる。

久富さんは退任後も竹田地区に定住し地域に貢献していく。「人との繋がりを強く感じられ、地域の人に感謝されることが多いので、協力隊になってよかったと思っています。自分にできることをコツコツとやっていく中で地域の人に喜んでもらいたいです。これから協力隊になる人は、地域の人々の理解を得て、協力関係を築くことが1番大切だと思いますね。」そんな人柄も久富さんが竹田地区の人たちから愛されている理由の1つだ。





File No. 02

南越前町地域おこし協力隊

宇野朱美さん (35)

【出身地】 福井県福井市

【活動地域】 南越前町

【協力隊】 平成30年7月～

【活動内容】
町内滞在・町外連携イベントの企画・運営

夢を実現するための ステップアップ

【行商】店舗を持たずに商品を持ち歩いて小売りすること。ネット販売が増加する現代において、あえて行商という夢を持つのが宇野さんだ。

10年近く働いた商社から、南越前町の協力隊に転身した。流動創生事業（関係人口の創出や多拠点居住を推進）に取り組む町で、夢の実現に向けたヒントを得るためだ。

「行商により福井の良い物を県外で販売・PRすると同時に、県外の良い物を福井に持ち込むことが夢です。パソコンや携帯で何でも買うことができる現代だからこそ、対面で販売することの大切さがあるんです。」

町に滞在してもらい、宿泊料を取らない代わりに畑仕事などを手伝ってもらい『Stop Over(ストップオーバー)』企画や流動的なライフスタイルに関心を持つ若者が全国を巡り、地域住民たちと縁をつくる『Round Trip(ラウンドトリップ)』企画を行っている。「関係人口」という言葉が流行する前から取り組んできた流動創生事業は徐々に浸透し、参加者が増え、リピーターも現れるようになった。夢の実現に向け、参加者たちの生活や考え方に触れている。

「地域おこし活動だけど、地域の人の要望に応じてばかりでは、自分のやりたいことができない。自分のやりたいことに芯を持つことが大切だと思います。ただ、地域の人と良い関係を築くことが第一ですけどね。」夢の実現のため活動する宇野さんの熱い想いをつい応援したくなる。





File No. 03

越前町地域おこし協力隊

大谷幸寛さん (27)

【出身地】 福井県福井市

【活動地域】 越前町

【協力隊】 平成30年4月～

【活動内容】
移住コンシェルジュ、イベントの
企画など

人と人、 人と地域を「つむぐ」

高校卒業と同時に福井を離れ、金沢・東京へと生活の拠点を移したが、協力隊として着任した土地は故郷である「福井」だった。大学時代から趣味で音楽イベントを開催しており、「福井でも音楽イベントをやってほしい。」との声がかかり、福井へのUターンを決めた。「東京で働いていた時に比べ、のびのびと仕事ができます。」といつも屈託のない笑顔を浮かべている。

「音楽イベントを開催することで、人と人が交流できる、「つむぐ」場を創りたいんです。」協力隊の仕事はそんな大谷さんにぴったりの内容だ。都市部での移住イベントなどでの移住相談や移住体験施設での宿泊者の案内、越前町内を盛り上げるイベントの企画を行っている。まさに人と人、人と地域を「つむぐ」仕事を行っている。

また、「つむぐ」のは県外の人だけではない。「越前町内には面白い人が何人もいます。その人たちを繋ぎ、盛り上がりの火種をすることで町全体を盛り上げたいと思っています。」人の特徴を見抜き、出会うべき出会いを生み出すことで人と人との化学反応が起こっている。

「協力隊として活動していると、地域の人と繋がりやすい。協力隊の活動中は人との繋がりをつくるための期間だと考えています。」人との繋がりを大事にする大谷さんらしい言葉だ。





File No. 04

高浜町地域おこし協力隊

月田シヨーンさん (34)

【出身地】 イギリス

【活動地域】 高浜町

【協力隊】 平成30年4月～

【活動内容】

地域づくりコーディネーター、広報活動、英語の通訳・翻訳、外国人観光客向けガイド

京都の近くに こんな美しい自然が あるなんて！

「友人に連れられて初めて高浜町に来たとき、海や山、町の美しさに感動しました。すぐに移住を決めましたね。」6年間生活した京都を離れ、新生活の拠点に選んだのは高浜町の中でもさらに田舎の地区だった。

ロンドンで生まれ育ち、20代後半に来日し京都で生活していたが、田舎暮らしは初めてだった。「毎日が初めての経験ばかりで大変なことも多かったが、楽しいという気持ちのほうが大きかったですね。」元々憧れを抱いていた田舎での生活。「自分の家で畑をすること、家の周りに野生の動物がいること、自然に囲まれて生活することがすごく楽しいです。」と満面の笑みだ。

平日はイベントの企画や事務作業、週末は町が発行する広報誌の作成のためイベント等の取材を行うほか、英語ができる貴重な人材ということで英語を使った仕事を任されることも多く、多忙な毎日を送っている。しかし、「協力隊の3年間で自分の仕事とやりたいこととのバランスをうまく取り、やりたいことを仕事にうまく結び付けていきたいですね。将来的には外国や日本に住む外国人と高浜の懸け橋になりたいです。」と目を輝かせている。

「オープンな気持ちを持って、最初はその地域でいろいろな経験をしたほうが良いと思います。そうすることで地域を知ることができるし、地域の人とも仲良くなれます。」フレンドリーな月田さんは今日も高浜の人たちとの絆を深めている。





File No. 05

おおい町地域おこし協力隊

秋庭康介さん (29)

[出身地] 神奈川県横浜市

[活動地域] おおい町名田庄地区

[協力隊] 平成28年7月～

[活動内容]

道の駅名田庄スタッフ、移住希望者への案内など

おおい町や福井県を 知ってもらうためのドア作り

道の駅名田庄を訪ねた時、秋庭さんはお客さんと楽しそうに会話をしていた。道の駅での勤務が秋庭さんの主な仕事だ。「協力隊1～2年目は町内を回り、地域のひととの交流や町の魅力を発見しSNSで発信していました。そんなある時、南の玄関口である道の駅名田庄に来た観光客をおおい町全体に波及できていないことに気づき、1～2年目の経験を活かして、道の駅とおおい町全体とのパイプ役になろうと思いました。」その言葉の通り、お客さんとの会話やSNSなどを通して、日々おおい町の魅力を発信している。

「おおい町というワードが目や耳に触れるためのドア作りをしてきた。退任後も道の駅がドアとなり、おおい町だけでなく福井県全体に人を流していけたらいいと思っています。」秋庭さんに刺激を受け、SNSを活用し情報発信を行う団体も増えたという。

「おおい町に移住後は、趣味のフットサルがあまりできていないが、スポーツ少年団で子供たちにサッカーを教えていて、形は違うけど大好きなサッカーも続けられています。今はヒゲを伸ばして、子供たちにヒゲのおじちゃんとして覚えてもらえるようにがんばっています。」秋庭さんの話は面白い。「定休日以外でも店主の都合で休みになる店がけっこうある。」と田舎あるあるも話してくれた。

ぜひ道の駅名田庄を訪れてみてはどうだろうか。秋庭さんに惹きこまれ、自らおおい町のドアを開けることになるだろう。



File No. 06

福井市地域おこし協力隊OB

高橋 要さん (31)

[出身地] 山形県米沢市

[活動地域] 福井市殿下地区

[協力隊] 平成27年10月～
平成30年9月

[任期中の活動内容]

農家レストランの運営、被災地の
子どもの受け入れ、地域団体事務
局、イベントの企画 など

知らない土地だからこそ
できる挑戦を！



「知らない土地で新しい挑戦をしたい！」地元山形や大学院時代に地域おこしに取り組んだ新潟でもなく、実際に移住した場所はこれまで縁もゆかりもなかった福井だった。新潟の大学院卒業後、京都のNPOに就職したが、地域で活動したいという想いが強かった。そんなときに知人から紹介された福井・殿下地区という土地に様々な可能性を感じ、福井で協力隊として活動することを選んだ。

協力隊任期中には、20年以上続いているそば祭りで、地元産のそば粉が使われていなかったことに違和感を覚え、地区でのそばの栽培を復活させた。また、地区内のお年寄りを紹介するフリーペーパーを発行するなど、高橋さんの新しいアイデアは次々と形となっていった。

「地域を良くするために協力隊にできることは何か、自分はどこまで貢献できるかを考えるとまだまだできることが多く、殿下地区を離れるには早いかなと思いました。」協力隊の任期を終えた現在も殿下地区に定住し、農家レストランの運営やWebメディアライター、行政の事業の受託などを行っている。

地区内外の交流のハブ役も担い殿下地区にとって必要不可欠な存在となった高橋さん。しかし、目指す先は高橋さんがいなくても地域の人たちが自主的に活動し盛り上がる地域だ。協力隊の任期が終了した現在でも高橋さんの挑戦は続いている。



秋元郷佑 さん (33)

[出身地] 秋田県

[活動地域] 池田町

[協力隊] 平成26年11月～
平成29年10月[任期中の活動内容]
施設開業に向けた企画池田町は子供にとって
最高の子育て環境

より良い子育て環境を求めて地方への移住を考えていた秋元さんが池田町で協力隊になったのは偶然だった。

「山の中に子供が遊べる場所を造れるなんてすごく面白そう！」インターネットで移住先を調べていた時、数ある求人情報から池田町の協力隊が秋元さんの心を奪った。

すぐさま池田町協力隊に応募し、山の中で自然を体感できるレジャー施設オープンに向けた企画に携わった。建設会社での勤務経験が活かされ、その後も木育施設の立ち上げや廃校のリノベーションなどの企画も任されることとなった。

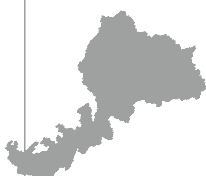
「池田町を出ていく理由がないですね。子供たちが過ごすにはすごく良い環境で子供が外で自由にのびのび遊んでいます。それに池田町でやれること・やりたいことはまだまだありますね。」協力隊を退任した現在はカフェやワークスペースを運営している。「地域おこし協力隊という肩書があったから町民の人にも受け入れてもらいやすく、多くの縁ができ、繋がりの大切さも改めて感じました。人と人が繋がる場所を提供したい。」その言葉の通り、カフェには地域の若者や母親たちが集い、交流を深めている。

町の91.7%が森林、人口3,000人未満という池田町に住むからこそ感じる田舎の大切さ。「人口減少の波にのまれず、孫の代以降もこの最高の子育て環境を残していきたいと思っています。」



地域
おこし
協力隊

福井県のサポート



市町の垣根を越えた企画をサポート 連携事業

福井県では市町の垣根を超えた活動やネットワークづくりを応援するため、隊員同士が連携し新たな地域おこし活動に取り組む「連携事業」を実施しています。1人では実現できなかった企画も、協力隊の仲間たちと協力すれば可能性は無限大です。

イベントへの共同出展や各地の特産品を活用したメニュー開発、福井県内のキーパーソンを巡るツアーなどを企画しています！



情報交換&スキルアップ 研修会・交流会

県内で活動する隊員同士が集まり、情報交換や課題の共有、仲間づくりなどを行う交流会を年2回（春、冬）開催しています。また任期終了後の起業に向けたスキルアップ勉強会や先輩協力隊の経験談を聞く研修会なども実施！あなたの「学びたい！」という気持ちを応援します。



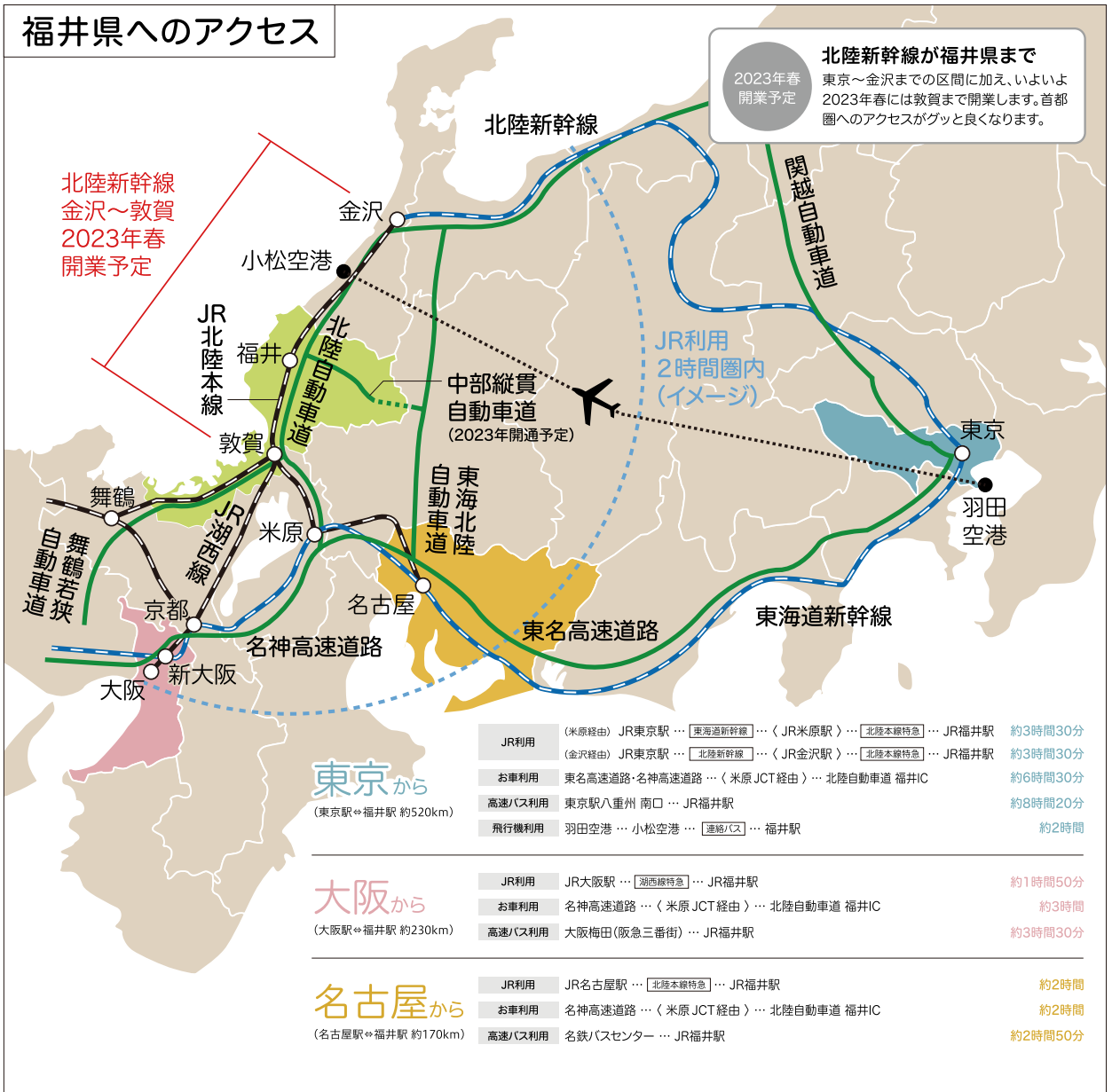
任期終了後の定住をサポート 定着支援事業

概ね3年間の協力隊の任期終了後も引き続き福井県内に定住し、地域活動を行う場合には、最大で100万円の定着支援金を交付します。

退任後も引き続き地域のために活動していただける方を応援します！



福井県へのアクセス



地域おこし協力隊になるには

福井県ホームページに福井県内各市町の地域おこし協力隊募集情報を掲載しています。また、福井県では東京や大阪などで、地域おこし協力隊受け入れ担当者が直接相談対応を行う募集セミナーを開催しています。現役の地域おこし協力隊も参加するので、協力隊のリアルな生活や移住者から見た福井など、気になること何でも聞いてください！

福井県の地域おこし協力隊募集情報・セミナー情報は

福井県 地域おこし協力隊



福井Uターンセンター（福井・東京・大阪・名古屋）では、協力隊の募集情報や仕事内容など何でも相談することができます。相談員があなたの悩みを解決します。ぜひお気軽にお越しください。

福井Uターンセンターで相談希望の方は

福井 Uターン



製作元／

福井県総合政策部

ふるさと県民局若者・定住支援課

〒910-8580 福井県福井市大手3丁目17番1号

TEL.0776-20-0638

E-mail wakatei@pref.fukui.lg.jp